

平成 30 年度

第 4 回

地域自立のための「人づくり
・学校づくり」実践委員会

議事録

平成 30 年 11 月 16 日（金）

第4回 地域自立のための「人づくり・学校づくり」実践委員会 議事録

1 開催日時 平成30年11月16日(金) 午前9時30分から午前11時まで

2 開催の場所 県庁別館9階特別第一会議室

3 出席者 委員長 矢野 弘典
副委員長 池上 重弘
委員 片野 恵介
委員 杉 雅俊
委員 埴 博
委員 藤田 尚徳
委員 マリ クリスティーヌ
委員 山本 昌邦
委員 渡邊 妙子

知事 川勝 平太

4 議 事

- (1) 社会総がかりで取り組む教育の実現
- (2) その他

【開 会】

事務局： ただいまから第4回地域自立のための「人づくり・学校づくり」実践委員会を開催いたします。

本日は、お忙しいところ、当委員会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

私は、本日司会を務めます文化・観光部総合教育局の長澤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日出席予定でありました豊田委員、渡部清花委員におかれましては、急遽所用のため御欠席と連絡をいただいております。

それでは、開会に当たりまして、知事から御挨拶を申し上げます。

川勝知事： どうも皆様、おはようございます。

今日は秋晴れで富士山も見えておりまして、本当に綺麗ですね。「心地よく 晴れたる秋の大空に いよいよ晴れる 富士の白雪」というのが大正天皇の御製ですけれども、そんな感じです。

今日のお茶は、静岡の茶草場農法の深蒸し茶でございます。これは島田ですか。深蒸しと言えば掛川と掛川の人はいいますが、実は、深蒸し茶を初めて作ったのは菊川で、しかし、その製法においては島田のほうが勝っているとか、皆様それぞれお茶自慢がございます。

茶草場というのは、冬を越すときにササやススキを巻いて、根っこのほうを保護する。そうすると、そこで生きている生物が息づいて、生物の多様性を大事にしながら育てている。しかも、お茶農家は、良いお茶を作るためにそれをしたわけです。結果的にそれがほかの生物にも良い形になっていて、すごい景色が良いということで、一発でイラン出身の大学者を説得いたしました。

ちなみに、彼は阿蘇に行ったのですが、誰も応接しなかったのです。阿蘇の酪農のところは、当然、世界農業遺産になるだろうと。そうしたら説明も下手くそで、結果的にうちだけ通ったのです。

その結果、熊本の知事さんは、わざわざ飛行機を用意してローマまで飛んで、説明に上がったのですが、現場なしで説明するから非常にわかりにくいのです。この決定は石川県で行われたのですが、熊本の知事は、石川県に前日からずっと泊りがけでなさいまして、私は、ばしっと1時間だけ行ってぱっと帰ってくる。そういう形で決まったので、素晴らしいのです。現場にしっかり足を運んでいるとこういうことになると。

それから、今日はお花がここにございますので、このお花も愛でただければと思います。

今回は矢野委員長の御指導で、もう一度前回の議論の続きをするということでございますので、前回の議論を上手に総括していただき、良い形で総合教育会議につながるようお願い申し上げまして、挨拶いたします。本日はお忙しい中、御出席賜りまして、誠にありがとうございます。

事務局： ありがとうございます。

それでは議事に入ります。

これからの議事進行につきましては、矢野委員長にお願いいたします。よろしく申し上げます。

矢野委員長： どうも皆様、おはようございます。

もう少し議論を深めたいということで、1回回数を増やしていただきましたが、お忙しい中をお越しくださいまして本当にありがとうございます。

それでは、次第に基づきまして議事に入ります。

本日は、前回に引き続き「社会総がかりで取り組む教育の実現」について、意見交換を行います。

前回の委員会を御欠席された方もいらっしゃると思いますので、事務局から簡単に資料の説明と、前回の議論の報告をお願いします。

事務局： それでは、事務局から説明いたします。

お手元の資料の1ページを御覧ください。

次第、座席表、出席者一覧の次の資料でございます。資料1でござい

ます。

資料1に本日の論点を記載してございます。

子供たちの教育は、学校の先生だけに任せるのではなく、「地域の子供は地域の大人が育てる」という決意のもと、取り組むことが重要です。「才徳兼備」の人材を育む教育を社会総がかりで推進していくために、以下の論点を御提案させていただきます。

1つ目の論点は、学びを支える地域に根ざした学校づくりの推進でございます。

多様化する児童・生徒の実態や社会の実情・ニーズに柔軟に対応した地域に根ざした魅力ある学校づくりを進めるために、具体的にどのような取組が考えられるか、御意見をいただければと存じます。

2つ目の論点は、誰もが夢と希望を持ち社会の担い手となる教育の推進でございます。

全ての人々が生まれ育った環境や経済的理由に左右されず、自ら持つ能力・可能性を最大限に伸ばし、夢や希望を持って社会の担い手となる教育を推進するために、具体的にどのような取組が考えられるか、御意見をいただければと存じます。

なお、この2つの論点につきまして、それぞれ検討の視点を記載してございますので、この検討の視点も御参考にしていただければと存じます。

次に、別冊の参考資料を御覧ください。

別にありますクリップ留めの資料でございます。

資料内容につきまして、前回と一部変更がございますので、改めて全体を簡単に説明いたします。

1 ページをお開きください。

コミュニティ・スクール等の状況でございます。1にございますとおり、現在、県内では76校がコミュニティ・スクールの指定を受け、2のとおり、137の地域学校協働本部が設置されております。

2 ページから3 ページにかけては、論点1に関連する県の施策・取組について取りまとめてございます。

次に、4 ページを御覧ください。

県内の障害のある人の状況をまとめてございます。

1の身体障害のある人の人数は、ほぼ横ばいで推移しておりますが、2の知的障害及び3の精神障害につきましては、障害のある人の数が増加傾向にあります。

次に、5 ページを御覧ください。

在留外国人の状況です。1を見ますと、平成29年12月末の県内在留外国人数は、計約8万6,000人となっております、また、2の一番下のグラフを見ますと、このうち15歳未満の年少人口は、計約1万400人となっております。

次に、6 ページを御覧ください。

下段の4を見ますと、公立学校に在籍する日本語指導が必要な外国人児童・生徒の数は、平成28年度に2,700人弱となっております。

次に、8ページを御覧ください。

いじめの認知件数でございます。平成29年度の数値が発表されましたので、前回資料と差しかえてあります。本県の小・中・高校、特別支援学校では、平成29年度に計約1万500件のいじめが認知されております。

次に、9ページを御覧ください。

生活保護法上の要保護児童及び就学援助を受けている準要保護の児童・生徒数です。平成27年度の本県の児童・生徒数は、合計約2万人であり、公立小・中学校児童・生徒総数に占める割合は、6.8%となっております。

次に、10ページを御覧ください。

2に記載のとおり、県内の特別支援学校の在学者数は、年々増加しております。また、11ページの5に記載のとおり、特別支援学校高等部卒業者の就職者の割合は、4割強となっております。

次に、12ページから16ページにかけては、論点2に関する県の取組事例についてまとめてあります。

また、17ページから25ページにかけては、県教育振興基本計画における「社会総がかりで取り組む教育の実現」の関係施策とその位置付けについてまとめてございます。

次の資料に移ります。

クリップ留めの下資料でございますが、第3回実践委員会の論点に関する意見（池上副委員長提案）を御覧ください。

前回の実践委員会での論点の議論を進める中で、池上副委員長から御提案がありました内容と関係資料でございます。この御意見につきましては、次の資料2の中でまとめて説明をいたします。

それでは、本体資料に戻っていただきまして、2ページの資料2を御覧ください。

前回の実践委員会が出された意見と池上副委員長からの御提案を含めて取りまとめてございます。

最初に、論点1につきまして、地域学校協働本部やコミュニティ・スクールの導入等に関する意見では、学校運営協議会がPlan、地域学校協働本部がDoの関係で、両者が協議をしていく必要がある。学校行事の中に地域を取り込むだけでなく、学校が地域清掃や祭等に積極的にかかわって交流する必要があるなどの御意見がございました。

次の「地域の実情を踏まえた魅力ある高等学校の実現に関する意見」では、スポーツ学科の設置について、地域バランスを考え、世界、プロで活躍できる子供を輩出できる静岡県独自のものをつくってはどうかという御意見。

「専門知識等を有する人材の学校教育での活用拡大に関する意見」では、子供たちに多様な学びの機会を提供するために、学校側のニーズを

掘り起こす取組を進めてはどうかという御意見。

また、3ページに行ってくださいまして、コーディネーターの役割、また産業雇用安定センターのキャリア人材バンクの活用について御意見がございました。

次の「スポーツ人材バンクの充実に関する意見」では、人材バンクに登録するメリットや既に活躍している指導者のロールモデルなどを示す意見、また登録の基準に関する意見や、指導者養成の必要性に関する御意見がございました。

「静岡型ホストファミリー制度の構築に関する意見」では、買い物や食事などの交流を切り口に、ホームステイに対するハードルを低くし、受け入れ家族の登録に結びつける意見、1市1町1家庭ずつ受け入れる仕組みについての御意見がございました。

次に4ページを御覧ください。

論点2につきまして、「マイノリティーとの共生意識の醸成に関する意見」として、障害のある子供と健常者の子供との関わり合いについて、例えば農業体験や運動会など、お互いに個性を認め合う場をつくる必要があるという御意見。

「情操を育む教育の推進に関する意見」では、感性を引き出す教育についてや、あらゆる文化にアクセスできる機会を平等に整えるべきとの御意見。

「読書の時間における音読等の充実に関する意見」では、読書の時間の中で音読や朗読を選択肢として取り入れたらどうかという御意見がございました。

次に、机上に配付いたしました資料を簡単に説明いたします。

前回の実践委員会で、産業雇用安定センターのキャリア人材バンク事業について御意見がございましたので、その概要資料を追加で1枚添付しております。

また、一番下にあります大きなクリップ留めの資料につきましては、前回配付しました資料です。

簡単に説明いたしますと、上から報道発表、文部科学省と記載があります文部科学省の教員勤務実態調査、多忙化解消プロジェクトとその冊子、ふじのくに魅力ある学校づくり推進計画と冊子、静岡県立特別支援学校施設整備基本計画概要、「第3章 特別の教科 道徳」とある小学校の学習指導要領と中学校の学習指導要領、A3版の資料でございます第2次静岡県消費者教育推進計画の概要、あとブルーの冊子でございますがコミュニティ・スクール2018のパンフレットでございます。

一番下にありますが、追加資料といたしまして両面のカラー刷りの1枚紙でございます。これは池上副委員長、宮城委員、加藤暁子委員に講師として御協力いただきました「未来を切り拓く Dream 授業」の開催結果でございます。

以上で事務局からの説明を終わります。

矢野委員長： どうもありがとうございました。

まず各論に入ります前に、総論的な議論をさせていただきたいと思えます。前回の委員会でも触れましたが、事務局に説明いただいた資料1の論点1、論点2の前文の中に記載がありますが、「才徳兼備」の人材を育むという点でございます。もう少しこの点について議論を深めたいということをお前の委員会で申し上げました。

御承知のとおり、本県は「有徳の人」の育成を教育の基本理念に掲げておまして、これ自体本当に素晴らしい目標だと思いますが、「有徳の人」をもう少し具体化した言葉として、私は「才徳兼備」という言葉が適切ではないかと考えております。

教育を進める上で、もちろん才能・知識を伸ばすことは大事であります。才能だけではなく「徳」、人徳・人物・人格・人間性を養うことが重要だと思います。人の魅力や人の信望のもと、才能というよりむしろ徳の面で大きな影響を持ちますので、その点については、徳が先で才能は後、両方必要なのだということですね。

才能と人間性をあわせ持つ人物を、社会全体でどうやって育てていくか、こういったメッセージを強く打ち出して、これからこの委員会での議論を進めて行きたいと考えておりますが、是非委員の皆様率直な御意見を承りたいと思えます。

御自由にどうぞ。

マリ・クリスティーヌ委員： 最近、東京女子大で教えることになりまして、びっくりしたのですが、生徒さんの中に静岡県の方が多いのです。

「どうやって通っているの」と聞いたら、こちらから通っている方もいれば、寄宿舎に入っていたり、近くで生活したりしているのですが、今、教えている授業で、「何であなたは静岡で大学に入らずに東京に来たの」と聞いたら、勉強したい授業がなかったと言われて、それは何かと言いますとジェンダー教育なのです。

女性たちは、ジェンダーに非常に興味を持っています。特に国連の機関に入りたいとか国際的な仕事をしたい人で、語学も生かしたいという人です。

私が驚いたのは、英語でも授業をやってもらいたいと言われて、余り英語で授業をしますと子供たちがつまらなくなってしまうので、混ぜてやっておりますが、とても英語力の高い女性たちが来ているのです。

静岡県にたくさん優秀な若い子たちがいて、高校のときにどこに行こうかと悩んでいる中で、せっかく静岡県に大学があるわけですから、周辺の大学に高校3年生とか2年生ぐらいから聴講生として入ってもらって、自分が興味のある授業を受けることで単位を取ることができて、大学を選ぶときにその大学に単位があれば、その大学に入ろうと考えるかもしれません。

今は英語ができれば、インターネットで、世界中に自分が受けられる授業がたくさんあります。東大も同じような持続可能な授業を出していますし、アメリカのMITとかいろいろところで、自分が少しお支払いすると、その授業を単位として使えるので、バーチャルな大学ではなく、自分がその次に行く大学でそれが使えるようになっています。

ハイテクな形の中で、子供たちが取得できるような単位の取り方とか、勉強の仕方とか、そういうものをもう少し幅広く考えて差し上げると、コミュニティーの中で才能を持っている方々が、もっと才能を伸ばせるような扉をもっとつくって差し上げて、なおかつ自分たちが生活しているところと世界がつながる気持ちになれるようなものを、何かここに少し組み込むことができたかどうかと思います。

特にジェンダーに対しては、国際社会とジェンダーという授業を今教えておりますが、世界中の女性たちが大変困っている状況が多くて、そういうことを女性たちに話したりすると、こんなことがあるとは知りもしなかった、今までに教えてもらえなかったことだと言います。もちろん世界のことから。

不思議なのは、ジェンダーの科目には、男性がほかの大学から女子校に聴講に来ているのです。なぜかというと、普通の大学でジェンダーを深く掘り下げてやっているところがまだ少ないからだと認識しているみたいです。

矢野委員長： ありがとうございます。

大学と高校の連携ですね。そういう点でいろいろ可能性があるかと。また、そういう機会を与えることによって、高校生の才能の開発や成長に資したらいいのではないかという大変有益な御意見だと思います。それをどのように具体化していくかは、問題点として取り上げるとよろしいかと思います。

ほかにいかがでしょうか。

埜委員： 今のお話を伺って、そのとおりで共感するところがあります。

年齢や組織、立場、そういうものを超えて受け入れてもらえるような環境が必要だということと、意外と自分自身の意思でそうしたボーダーを取り払っていくことも可能だと思います。

時間軸でなくても、例えば、大学生で自分が経済を学ぶのであれば、哲学の授業に出たり、他大学の授業に出たり、立場を超えて大学教授が集まっている勉強会の中に学生が一人入るとか、意外とできるのです。

ただ、そういうできることを、子供たちは「まさか」という意識を持って、自分でブレーキをかけてしまうのです。意外と世の中は、自分が行動することで道が開ける部分もあります。そんな中で、能力や徳も開発されていくと思います。

なかなか難しいところもあろうかと思いますが、子供たちにそういう

ことができるのだよということを伝えると同時に、行動を起こさせることが必要だと思います。

拒否されることは自分の経験から言えないのかなと思います。「とんでもないやつだ」などとよく言われますが。意外と行動で道が突破できることもあります。

矢野委員長： ありがとうございます。
池上先生、大学の立場でいかがでしょうか。

池上副委員長： なかなか大学の立場からの返答は難しいと思います。
ただ、少なくとも今大学は、御指摘をいただいたような方向で取り込んでいこうと模索を続けている段階だということは、申し上げることができると思います。それは本学のみならず、これから18歳人口が劇的に減っていく中で、大学がどういうあり方を社会に対してしていくべきかという視点は欠かせない視点です。

その表れの一つが、例えばハイテクな方法を使った単位の取り方、あるいはその学生の取った単位を卒業単位にどう組み込んでいくかという教務上の技術的な問題などがあります。

また、地元で立場を超えた人たちが集まるような場所、そこから得られた刺激を研究にどう落とし込んでいくか、あるいはそれが単に研究だけではなくて地域の産業振興にどう還元していくかといった視点を、大学は非常に意識しています。

今この場で、それではこうしますとはなかなか言いにくいのですが、少なくとも大学業界はそういう視点を持っているということはお答えできると思います。

才徳兼備については、もう少し皆様のお話を聞いてからお話したいと思います。

矢野委員長： 最近新聞を見たら、小学校5年生で数学コンテストの世界一になった子がいますね。

ああいう少年を見ていると、小学生ですから、中学、高校を飛び越えています。中には高校生で、「学校の勉強はもういい、もう全部わかっている」という子もいると思います。そういう子が早く大学で勉強して、どんどん進んでいくという道筋はあり得ますね。

そういう特別な人ではなくても、ゆっくり時間を追って自分の目標を実現したいと、先ほど言われたように国際機関で働きたいとか、そういう人たちの思いを実現する場が大学には必ずあるはずなので、それを高校生とどうつなげていくかは非常に大事な問題ですね。

もう少しいかがですか、御意見があれば。

杉 委 員： 私は静岡産業大学に籍を置いて、藤枝駅前にあるB i V iという建物

の1階で産学官連携推進センターを運営しております。そこには自由なスペースがあって、高校生・中学生が毎日勉強をしに来ます。「そんなに勉強してどうするの」というぐらい勉強しています。

今皆様がおっしゃった内容はとても素晴らしい話で、その方向に行けば良いのですが、今現在彼らは、「私はこれをやりたいからこの大学へ行く」というのではなくて、「こういう名のある大学に行って名のある企業に入ろう」という流れになっているように思えます。ひたすらテスト対策として記憶のための勉強をしているのです。

しかし、今、日本の教育は大きく動こうとしています。議論ができる人、自分の言葉で説明ができる人を育てようという流れがもっと大きくなってくると、偏差値を上げるための勉強だけではなくて、自分がここへ行ってこうするのだという流れがもっと出てくると思います。

残念ながら今現在は、マリさんがおっしゃったような素晴らしい人はまだ一部で、多くはまず大学へ入るために勉強していて、その大学にどのような特徴があるのかを知らない。そこで今度は池上先生の話になりますが、この大学ではこういうことができるということを大学側が大きく示していくことが大事だと思います。

山本委員： 杉先生の御意見に賛成です。将来どうやって生きていくのか、こういう仕事がしたいから、こういう勉強をするというのが大前提です。世の中には、勉強ができて仕事ができない人がいますので、これでは意味がありません。

得意なこと、好きなことやみんなよりも上手にできることにチャンスがありますので、その人生のチャンスを小さい頃から意識させる、得意なことに気付かせてやることが大事だと思います。

3大会連続でワールドカップに出た本田圭介という選手がいますが、彼は小学校の卒業文集に、40億円稼いでイタリアのセリエAで背番号10番を着けてプレイしてと、事細かに書いてありました。実際にそれを全部実現して、とくにその金額を稼いで、ヨーロッパのクラブのオーナーになっています。去年までACミランの10番を着けていて、小学校6年生の頃の夢をずっと追いかけてきているのです。

でも、彼は中学校の頃、ガンバのジュニアユースからユースに上がるときに落とされているのです。もっと上手な人がいっぱいいたのです。そこで諦めずに星稜高校に行って、覚悟して努力してこうなっているのですが、そういうことから考えると、好きなことを意識させてやることが大事だと思います。

先ほど静岡はすごいなと思って資料を見ていたのですが、いじめや保護児童者数の制度など、カバーがしっかりできていて、こぼれる人が出ないように平等にいろいろな人たちを支えているのは、自慢しいデータだと思います。

一方で、未来を切り拓くために、引っ張っていける人を育てることも

重要です。

トップで静岡の誇りを身に付けられるような人、例えばサッカー界では、今回引退した川口能活君や長谷部君などが出ています。

今の17歳以下の日本代表が、アジアでチャンピオンになって世界に行くのですが、20人選ばれるうちの4人は静岡の子で、静岡県で大分カバーできるようになってきました。それは静岡県サッカー協会で、小さい頃からいろいろな国際経験を積ませたりすることで、そういう子たちが育ってきていることも一つの要因だと思います。

前回もお話ししましたが、トップを育てるためには、地域バランスが重要です。なぜかと言うと、全学校でやったらお金が幾らあっても足りませんので、通える範囲の中で拠点をつくって、栄養と休養とトレーニングのバランスを取ることが重要だと思います。

そして、サッカーの世界では、チャンピオンズリーグというヨーロッパの最高峰のリーグに出ているクラブの選手は、みんな17歳でプロデビューをしまして、今のスピード感は、高校を出てからでは遅いのです。いかに16、17歳が大事か。そこでいろいろな経験をしている人は、伸びが早いのです。サッカー界には強化指定選手というものがありまして、高校生でも優秀な子は、Jリーグの試合に出られたりします。

その年齢が少しずつ変化していることも意識しないとイケません。先ほどの11歳の子供の話もそうですが、将棋の世界を見てもどんどん低年齢化しています。彼らはそういう得意なことで生きていけるのです。静岡のいろいろな未来を引っ張っていき、「ああいうふうになりたい」と憧れられる人をたくさん育てることが、引っ張っていく上では大事だと思います。もちろん支えるということもすごく重要だと思いますが。

それから、一番大きな問題は、中学校でタレントを発掘できていないことだと思います。

中学校では、才能があるにもかかわらず、そこに専門的な指導者がいないために、その子の才能を伸ばしてあげられないという環境が、多々あります。

これは公平か、平等かと言うと、公平ではないと思います。才能のある子を更に伸ばしてあげられる環境をどうサポートしていくのかが、サッカーに限らず重要だと思いますので、特に中学校の部活をどうやってレベルアップさせるか。

そのためには、タレントの発掘と育成とそれを維持する仕組みが重要だと思います。急にはできないと思いますので、モデルをつくるか、ある地域に分けてやっていくのが良いのではないかと考えています。

矢野委員長： ありがとうございます。

才徳のほうの才能の部分の一步をいかに開発していくか、文武芸三道にわたって大変御示唆に富んだ御意見がたくさん出ました。

一方、徳の問題は、教育の場で道徳教育などと言われておりますが、

渡邊先生がおっしゃった文化を愛する心や柔軟な心という御指摘もありましたが、人間的に大きく広がっていく徳の問題について、どうやっていくかがこれからの課題だと思っておりますが、その点についてはいかがでしょうか。

渡 邊 委 員： 一つある例をお話ししたいと思います。今、刀剣乱舞というゲームがはやってしまっていて、そこに登録しているのが二百数十万人と言われております。そのポイントは何かという、日本刀を愛するということなのです。でも、戦前の男性社会での日本刀の概念と全く違ってしまっていて、日本刀を一つの文化・造形として捉えて、そしてその背後にある物語、日本の歴史の物語をゲームにしているのです。

昨年もそれにテーマを絞った展覧会をすると、佐野美術館みたいな田舎に1カ月2万5,000人位の入場者があって、国内ばかりでなく香港やシンガポールやソウルから、田舎の小さな佐野美術館を目指して、飛行機で外国人が来るのです。ゲームの力の大きさに驚いております。

ゲームならばどうせ二、三年で消えるだろうと思っていましたが、このところ消えないのです。ある女性が私に「日本刀の話を教えて欲しい」と言って来て、「あなた一体仕事は何なの」と聞いたら、静岡県立総合病院の医師だと言うのです。県立病院の医師や看護婦なども、皆忙しい仕事の中で、そのゲームから入って日本刀に興味を持った人がかなりいると言うのです。

私はNHKなどで、日本人がつくり出した工芸の中で典型的な様式美を持っているのが日本刀であるという話をするので、日本刀を話すと日本の工芸、日本の感性がわかるという感覚に少し引きずられている人たちがいるのです。一部だとは思いますが、その人たちが全国の美術館の刀剣展示に群がって集まるのです。

今、京都国立博物館で「京のかたな」展をやっていますが、20万から30万人入るだろうと言われております。私は初日に講演を頼まれて行ったのですが、1日で4,500人の入場者がありました。

入口を出ようとするそばと周りいろいろな人が質問に来て、あれは間違っている、これは間違っていると女性たちが皆で言うのです。京都国立博物館で用意した5,000部の図録が1日で売れまして、そういう人はそれを全部読んで、中に書いてあるここが間違っている、ここが間違っているとぼんぼん質問が来るのです。

展示の照明が悪い。佐野美術館は照明がいいけど、国立博物館は照明が悪くて見えないから何とかしろと言うので、アンケートを書きなさいと言いまして、アンケートで言っても、国立博物館は業者が入って展示していますので、素人では照明はできないのです。

なかなかできなかつたら、大阪の歴史博物館の学芸員に刀剣専門の人がいるのですが、彼女が来て京博の電気を直したとか、そういうことが全部情報で流れるという不思議な世界が今つくり出されています。

なぜこうなったのかには、いろいろな考えがあるのでしょうけれども、去年佐野美術館でやったときも1カ月で2万5,000人入る、今年も正月にやるのでそのぐらい入るだろうと思っておりますが、三島というたかだか10万ちょっとの人口の街に2万5,000人が入るのは、街が大変なのです。

だから、市長を動かしてその刀剣乱舞とコラボを組んで、三島大社や楽寿園などを回るスタンプラリーをつくり出したのです。そうすると、彼女たちが早目に来て、街を歩いて商店で物を買っていってくれる。

彼女たちは、お金を大変持っているのです。図録を出すと、大体図録が売り切れるぐらい売れるのです。図録を買う、街に行って商店で物を買う、それで何が良いかというと非常にお行儀がいい、礼儀正しい。

例えば、美術館で誰かが私と話しているところに、その話し方や行儀が悪いというとすぐネットに出て、「誰々さんが今話しているのは誰だと思いますか、佐野美術館の館長さんですよ、そういう態度は無礼である」とか、そういうのがネットで出るのです。

街で非常に評判が良くて、「来年もやってやって」といろいろな商店のほうから声を掛けられるのは、彼女たちが礼儀正しいからです。非常にお行儀が良くて、おとなしくて、お金を使ってくれる、ああいう人たちは今までいないと。

私が褒められる、ネットに出るのは、「凛として礼儀正しい、無礼なこととは許さない」と、彼女たちのネットの中に出ています。

どうしてああいうものが出たのかよくわからないのですが、振り返ってみますと、私が佐野美術館、徳川美術館、東京の根津美術館、それから富山の水墨美術館の4館で「名物刀剣―宝物の日本刀―」という展覧会をやりました。その名物というのは、室町時代には日本刀の鑑賞方法の一つで出たのですけれども、もう一つ焼き物や書画など、いろいろなものに名物が出て、名物を所蔵するのが一つの誉れのような風潮があって、その名物が江戸時代に続いているのです。

そういうものを中心に扱った日本刀の展覧会をやったのがきっかけになったのかもしれないのですが、今その名物が彼女たちの目当てになっていて、名物については誰よりも良く知っているというぐらい勉強しています。いいかげんな学者よりも勉強しているというくらい非常に勉強家です。

それでいて、どうして資金を持っているのかというと、彼女たちがみんな仕事をしていて、自分で起業をして、サラリーマンもいますが、自分で稼いでいる自分のお金です。三島にふるさと納税をしてくれるように三島市で考えたのでしょうか、佐野美術館で何かそれに出せるものはないのかと言うので、佐野美術館の私の図録をまとめて、それに全部サインをしてくと幾ら幾らというのがあって、それが全国に広がっていると、何か不思議な現象なのです。

ゲームはみんな喜ぶことなので、最初はゲームなのです。ゲームに出

した資料は、室町時代の名物のおもしろい話とか、例えば、時間がないから1つだけ名物の話をしてもいいですか。

今川義元が桶狭間で戦ったときに、今川義元が持っていた太刀を信長が分捕ったのです。信長がその長い太刀を短く切って自分で腰に差していて、本能寺で倒れて、今度それは秀吉の所蔵になったのです。秀吉が亡くなった後、秀頼が徳川家康にそれを贈呈して、家康は信長のことが好きでしたから、家康はそれを大事にして佩いていた。そして、江戸城にそれが伝わったのですが、江戸城の明暦の大火で焼けてしまったのです。そうすると、明治の初めに徳川の宗家が、その信長の持っていた宗三という南北朝時代の太刀を焼き直して、建勲神社に奉納したのです。それが今、京都国立博物館にあります。

簡単に言うと、その1本の太刀が、ずっと歴史の物語を語るのです。それを刀剣乱舞の人たちは見事にマスターしています。合わせて日本の歴史を盛んに勉強しています。それは今、京都国立博物館に展示して、来年の正月に佐野美術館に展示することになっていますが、それを目当てに全国から来るといふ現象があるのです。

その現象が、いつまで続くかわかりませんが、歴史を勉強し、それから日本刀の特色を分析すると、日本の工芸の一番のエスプリがその中に象徴的にあらわされていることまで、彼女たちはマスターしています。

そういう一つの社会現象を、みんながいろいろな角度からフォローしていくと、1つの運動になるのかなと思っております。以上です。

矢野委員長： 大変素晴らしいお話を賜りまして、ありがとうございます。

やはり本物の持つ力、影響力というのでしょうか。お話を伺いながら先生が前にここでおっしゃったことを思い出したのですが、小学生が訪ねてきて、鎌倉時代の名刀を見せたら、皆ぱっと正座して行儀良くなって、静かにそれを鑑賞したという話がありましたが、それに通ずるお話かなと伺っておりました。どうもありがとうございました。

池上先生、いかがですか。

池上副委員長： ありがとうございます。

それでは、私なりに論点1に関する事、それから、特に才徳兼備について考えていることを述べさせていただきたいと思います。

有徳の人という言葉との対比を意識しながら考えたのですが、有徳の人というのは、大きく円を思い描いたとき、そのある方向性をぼやっと示す概念なのかなと私は感じていました。

それに対して才徳兼備という言葉は、矢印のイメージを私に感じさせました。才というのは矢印、ベクトルの長さです。あるいは、矢印と一言で言っても、形には、例えば先端のとがり方は、丸かったり、太かったりいろいろな形がある、これが才。

徳というのは、その矢印の向く方向なのかなと思いました。例えば、

とても長い切れ味の良い矢印だけれども、徳とは逆の方向に向く場合もあり得るでしょう。ある才覚を悪いことのほうに使う。つまり、才はあるけれども、悪のほうに行ってしまう場合もある。

したがって、才徳兼備というのは、ある方向性として徳の方向に向けて、その子の持っているものをうまく磨き上げて、先ほどの渡邊先生のお話に比喻のもとをとらせていただければ、刀を鍛え上げるのです。その子のもともとの力を磨き上げて、皆同じ矢印ではないけれども、それぞれの子供の力・夢にあった矢印、長さや太さや形も違う矢印を徳の方向に向けていく教育なのかなと考えました。

では、徳を身に付けるにはどうすればいいかということで、一つ非常に大事なものは、しっかりとその子なりの自己認識を打ち立てることだと思います。己は何者なのかについて、子供なりに考えると思います。そのときに3つのポイントがあると考えました。

1つは世界を知ること。これは単純に隣に韓国があって、その先に中国があってという、国名と首都の名前とかそういう話ではありません。そこにどんな人が住んでいて、どんなことを大事にして生きているか。あるいは、家族と一言言っても、そのあり方は実に多様なわけです。そういった世界の国や人々に対する認識が大切です。さらに、今はグローバル化の時代ですから、そこに環境という問題も入ってくると思います。世界というのは、単に国に関する知識ではなくて、国を超えた地球環境も含めて考えなければいけない。

2つ目は、歴史を振り返ることだと思います。歴史を振り返る中には、古典に触れることも当然含まれてくると思います。人間が経験したこれまでのことの中に英知の源を見出すということです。

もう一つは、3番目に未来を見据えることだと思います。今自分たちがいるこの先にどんな未来があり得るのか、その中でどういう未来を選び取っていくべきかについて考える。そこには先端科学に対する知識・理解も含まれてくるでしょう。

世界を知る、歴史を振り返る、未来を見据える、こういう教育の中で子供たちは自己認識を深めていく。そうすると、自ずと徳というのはどういう分野なのかがわかってくると思います。最近では、SDGs、国連の持続可能な開発目標とよく言われていますが、そのSDGsも落とし込んでみると、世界を知る、歴史を振り返る、未来を見据えるということにつながっていくと思います。

したがって、才徳兼備というときに単に英語が話せるとか、数学がうまく解けるということとは違う自己認識につながるような教育も大事だと考えました。これは単に高校・大学レベルではなくて、小学校・中学校、あるいはもうちょっと前の段階からも大事だと思います。

その上で、先ほど私が比喻で出した矢印の話に引きつけて、もう一つだけお話をさせてください。

今、論点1について話しているのですが、その上の前書きのところに

こんな記述があります。「個々のニーズに応じた教育の充実等、夢や希望を持って社会の担い手となる教育を推進することが必要である」と書いてありますね。今日の資料として用意していただいた「未来を切り拓く Dream 授業」のお話をさせてください。

Dream 授業は、7月の終わりから8月ということで、暑い盛りに実施しました。それから今11月に入って、この授業を受けた子供たちの2カ月後の振り返り、あるいは子供たちと日々接している保護者の方々や先生方の評価がまとまってまいりました。私もそれを事務局から受けて、一つ一つ全て目を通しましたけれども、そこには非常に興味深いことが書かれていました。

このカラー資料の裏面を御覧いただきたいのですが、子供たち自身が書いていることは、「自分の中で明確な夢のイメージを持つこと、単にこれまでは何とかになりたいという話だったが、そのためにはどうやって今学んでいけばいいか、その学びのプロセスが見えてきた」ということを書いていた人が多かったです。

また、「同じように夢に向かって積極的に立ち向かおうとしている仲間と出会えて、非常にやる気が高まった」というモチベーションの問題ですね。特に今は、一つ一つの学校が比較的小規模になっていますので、学校の枠を超えて夢に向かって真摯に向き合う仲間と出会えたことは、とても大きな機会だったようです。

2泊3日だったのですが、親御さんたちが書いたものを見ると、帰りの車の中で、ずっと会場を振り返って、「帰りたくない」と言っていたという声もありました。

親御さんたちからの子供の評価を見てみると、以前から割と家庭でも勉強する子たちだったのですが、その勉強に対して親から言われてではなく、自らの意思で、つまり「自分の未来を切り拓くためには、ここでこれが必要なのだ」と理解して取り組むようになった。あるいは、苦手なことにも取り組む。生き方のスタンス、構えが変わってきたという評価をしてくださっています。

先生方も全く同様で、仲間に対する声掛けを積極的にするようになったとか、自主的に動く、そういった姿勢が見られるということで、極めて高い評価をしていました。

恐らく、この子たちはこの3日間を通してうんと矢印が伸びたと思います。そして、これまでぼんやりと描いていた夢に対して、自分の矢印を向けるべき方向を明確に見据えたのだらうと感じました。

この企画は今回初めてで、本来であればこのメンバーの加藤さんや宮城さんにもコメントをいただくべきなのですが、今日はお二人ともお休みなので、私が代表して申し上げます。

非常に興味深かったコメントの一つは、初めてのものでどんなものかわからなかったし、例えば伊豆方面など、必ずしも掛川の地理に詳しくない保護者から、県の事業であるから安心して任せられたというコメン

トがありました。

わずか30人ほどの生徒に、これだけのことをやる意味があるのかという声もあると思いますが、矢印を1つぐんと伸ばせば、その矢印に向けてほかの矢印も僕も頑張ろう、私も頑張ろうと伸びていくのです。

そうすると、ぐんと伸びた矢印を目指して、たくさんの矢印が伸びていって、それが徳の領域に向けて大きな三角形の塊となって静岡県の子供たちが向かっていく。恐らくこの未来を切り拓く Dream 授業も、その先端をぐんと伸ばす一つなのだろうと思っておりました。

山本さんのおっしゃったスポーツの世界もありますし、この Dream 授業のような試みも是非静岡県の特色として今後も続けていけると良いと思った次第です。

矢野委員長： 大変明快な方向付けをしていただいたと思います。この実践委員会の意見としても、そういう方向でこれから進めていきたいと思います。

山本委員： この事業は、県の予算でやっているのでしょうか。

矢野委員長： 事務局から説明してください。

事務局： 今回のこの事業は試行で始めたもので、まずやってみようということで、県の予算をいただき実施したものです。概ね100万ちょっとくらいのもので、子供たちを2泊3日で集め、ここにあります実践委員会の先生方を中心に講義をいただきまして、さらにディスカッションや外国人留学生、ALTの方との国際交流も併せて行うというメニューでございます。以上です。

矢野委員長： 次回はいつ頃行うのですか。

事務局： 次回は、また来年の夏にできればと考えております。

山本委員： 明らかにこういう効果があるということは、素晴らしいことだと思います。

論点1に関して言うと、優秀な教員がたくさんいて、その人たちのレベルが維持できれば、とてつもない効果があると思いますので、先生方が成長できる仕組みも大事なポイントだと思います。

若い頃に教員になってステップアップするためのリフレッシュの研修や、自分の得意なものを専門的に伸ばし、更に専門性を高められるような、我々であればサッカーの更にレベルの高いところを研修できるような、先生方が成長できる仕組みがあれば、非常に効果があるのではないかと思います。

ただ、これは費用が掛かることだと思いますので、税金とは違う、何

かみんなの支援があるような特別な仕組みをつくるのが、こういうことにつながっていけば、非常に効果があると思います。

僕らの世界では、「あいつは伝えることにこだわっているから二流だ」と言われるのです。伝えるというのは、一生懸命言っているけれど、全然チームは良くなっていないし、子供も伸びていないということです。

これは二流監督で、一流の人が何て言われているかということ、伝わることにこだわっている。自分が一生懸命に論理的なことを言っても、伝わってなければ意味がなくて、選手が成長することと、チームがより強くなることは別の仕事で、別の心をつかむ仕事ができないといけないので、それを勉強する仕組みを教員の皆様が共有したら、一気に浸透するのではないか。優秀な先生方、やる気のある人が、更に成長できる仕組みがあったら良いと思います。

矢野委員長： 子供たちの教育の場だけではなく、先生たちのリフレッシュという面でも応用したら良いという非常に前向きな意見ですから、事務局でいろいろと考えてみてください。よろしくお願いします。

もう論点1に入っておりますので、前回御欠席の藤田さん、それも含めてお話しいただけますか。

藤田委員： ありがとうございます。

論点1、地域に根ざした学校づくりということですが、教育について私が思っていることですけれども、人生は何が正解かわからないと思います。勉強ができて、良い大学に入ること、大きな会社に入ることが成功ではなく、お金持ちになることが決して成功でもなく、一番大事なことは、考え方がどこまで研ぎ澄まされているかだと思います。

京セラの稲盛和夫さんが、人生の成果は、考え方掛ける能力掛ける情熱、この掛け算で組み合わさっていると。幾ら能力や情熱があっても、考え方がマイナスの方向であれば、結果は大きなマイナスになり、考え方が正しくて能力があっても情熱が少なければ、それだけの成果しか出ない。でも、考え方のベクトルさえあっていれば、どんなことでも絶対プラスになって、それが大きければ大きいほどその成果は大きくなると思います。

学生時代は、まさにビュッフェだと思います。同じお金を払って、食べたいもの、食べたくないものを自分で取捨選択できる時期だと思います。特に大学は、親元を離れ、親元を離れない場合もありますが、自由になる時間がたくさんあって、9時から5時までの学校の時間にデスクで学ぶことも大切かもしれないですが、そういう考え方を磨く時間は、私はアフターファイブの時間をどういうふうに使えるかだと思います。

考え方というのは、出会った人の数と移動した距離に比例するのではないかと思います。今私が会社を運営していて欲しい学生さんは、決して勉強ができて、良い大学の子ではなく、いろいろなことを経験して、

いろいろな国に行って、いろいろなボランティアをして、いろいろな人に出会って、いろいろなことを知っていて、情熱のある方が、企業としては欲しいのです。

ですので、学校の中で推奨していくのは、もちろん経営学部に行けば経営の勉強、経済学部に行けば経済の勉強、法学部に行けばそれなりの専門知識は学校で学べると思いますが、それ以外の部分、もちろんサッカー、スポーツでもいいですし、ボランティアや、例えば旅行を単位にしてしまうとか、そういう新しい発想で学生に「これを求めているのだよ」、「こうすればこういうものに変えられるのだよ」というたくさんのチャンスをメニュー化して、県などがそういうものをつくって、こういうことを今社会が求めているから、それを是非大学以外のところで勉強して欲しいということをお教えしたら良いと思います。

その中で夢中になれることを一つでも探せたら成功だと思いますし、私の好きな言葉に「努力は夢中に勝てない」という言葉がありますが、幾ら努力をしている人よりも夢中になった人のほうが、よほど強くて、情熱と能力がどんどん上回っていくと思います。

そんな機会をどこまで学生さんに与えることができるかで、教育と未来が変わってくると思いますので、スーパースターをつくるのではなくて、いろいろな考え方ができる人、もちろん一番になることは大事ですが、二番や支える人も必要ですし、周りを支えていることを知るの、社会に出なければわからないと思うので、そんなことがプログラム化されれば良いと思います。

矢野委員長： 大変素晴らしい御意見をありがとうございました。

富士山が美しいのは、大きな大地があるからです。地球があるから富士山が存在しているわけですから。そのように考えると、今お話を伺っていて、教育の対象は本当に広いと思いました。能力のあふれるような人には、その場を与える。いろいろな人たちのニーズに応えるのは大変な仕事ですが、大変有益な御意見をありがとうございました。

マリさんは、前回御欠席されましたが、論点1について何か御意見があればお願いします。

マリ・クリスティーヌ委員： 今のお話につながる話ですが、子供たちが、英語で言う empathy をどうやって培うかが大事だと思います。

それは恐らく、先ほど話した徳の部分だと思います。情のある人間でいられるかどうか、相手の気持ちを察することができるか、相手の苦しみを自分のものとして感じるができるか、喜びも同じように感じて一緒に喜んであげられるかが人間の原点で、それは家庭の中が一番覚えられる場所ではないかと思えます。人に対する気遣いなども、親の行動を見たりして覚えていくと思います。

でも、なかなか家庭の中だけではできないことがあります。この前二

ユージーランドの学校で私はすごく感激したのですが、学校の中で2つの植物を玄関に置きながら、1つの植物に対してずっと悪口を言うのです。もう一つの植物には、あなたは綺麗ね、美しいねと言うのです。聞いたことのある話ですよ。

それを学校の中で子供たちが実験としてやると、実際に植物がしなっとなってしまうのです。学校に来た子供たちが、毎日それを見て、こうやって悪口を言うようになってしまうのだということを実体験として見せている行動だと思います。

ただカリキュラムをこれですと教えるのではなく、子供たちが見て、だからこうしよう、だから人に良くしなければいけないとか、自分も良い言葉を掛けられるとこうやって伸びてこられるのだと示すことが大事で、カリキュラムはたくさんありますが、子供はカリキュラムを活用して育てていくものですので、そういう意味ではいろいろなやり方のカリキュラムと、その手法をもっと先生方や大人、それも学校だけではなく家庭の親御さんたちにまでも教えること、前にも親業という話がありましたが、どうやって伸びることができる子供を育てるかという手法を、もっとみんなに提供できたらいいと思います。

矢野委員長： ありがとうございます。

皆様、山ほど御意見をお持ちだと思いますが、論点2のほうでまとめてお話をいただきたいと思います。

それでは、論点2に移ります。

前回、池上副委員長から音読等の充実について御提案をいただきましたので、事務局に、現在、積極的に音読に取り組んでいる学校を幾つか調べていただきました。

お手元に資料をお配りしておりますので、事務局から説明をお願いします。

事務局： お手元の資料の右上に「論点2 関係資料」と書いてあります「音読の取組事例」という資料を御覧ください。

小学校の授業では、全学年で声を出して読む「音読」が取り入れられております。今回、1ページの2にございます授業の中での特徴ある取組や、授業以外の朝の会や帰りの会などで取組を行っている2校の小学校について紹介いたします。

最初に河津町立西小学校です。

2ページを御覧ください。

この小学校では、国語の授業の中で朗読家を招き、息、唇、舌のレッスンをを行い、声を出すことの気持ちよさ、意味が伝わる読み方などを学んでおります。

3ページを御覧ください。

音読集を用いて暗唱する「聞いてください、お気に入りの詩」では、

音読集からお気に入りの詩を暗唱し、担任や支援員等に聞いてもらい、暗唱ができるとシールがもらえるという活動で、授業以外の場面で、いかにこの音読を日常化できるかということを目的としております。

4 ページを御覧ください。

ここでは、ことわざや百人一首などを音読し、伝統的な日本の言葉のリズムを学んでおります。

次に5 ページを御覧ください。

伊豆市立修善寺南小学校では、朝の会や帰りの会で、ひびきタイムと名付けて、詩や慣用句、百人一首などをペアで読んだり聞いたり、学級全体で声を出す場を設定しております。

8 ページを御覧ください。

音読を算数に取り入れ、計算の答えを声に出して行う音読計算や、9 ページにございますように、社会の時間に都道府県の形を暗記して、声を出して県名を答える取組が行われております。

1 ページに戻っていただきまして、これらの活動の成果・効果につきましては、河津町立西小学校では、学校に活気が生まれた、人前で大きな声で話せるようになったなど、修善寺南小学校では、ペア活動により相手の話を聞くなど意識するようになった、音読計算では計算力、暗記力の向上につながったなどの効果をあげております。

以上で、事務局からの説明を終わります。

矢野委員長： 池上先生、いかがですか。

池上副委員長： 音読の重要性については、前にもお話ししたので繰り返しません、こういった子供たちが実際にやっている学校の効果を見てみると、対人関係においてもすごく子供の財産になるのだと感じます。

例えば、同じ内容のことでもテキストで書いてあるのと、テレビ等で聞くのと、今この場で私たちが空間を共有して空気の振動として私の言葉を聞いていただけるのと、やはり全然違うのです。その意味で、子供のときから音読をする、人とコミュニケーションを図る中で、言葉の意味、あるいは言葉の大切さを知っていくのは大変貴重な経験になるだろうと思います。

こういった2校の取組に学ぶことは多いと思いますので、このとおりの形ではなくてもいいと思いますが、県下全域で展開していけると素晴らしいと思います。

矢野委員長： ありがとうございます。

片野さん、お待たせしました。論点2が主体ですが、ほかのことについても御発言いただければと思います。

片野委員： 今までの話の中では、子供たちを中心に才能を高める、徳を積ませる

ということで議論を進めて、子供たちのなりたいことを後押ししてあげられる、またグローバル化の中でちゃんとやっていけるようにと考えていましたが、逆に社会の視点での教育というのも一つ大事なのかなと。

自分の中では、子供たちも社会の一員であり、社会の弱さをお互いに共有し合う、リアルタイムに共有し合うことが大事だと思います。

例えますと、先ほど飲ませていただきました静岡の茶草場農法でできたこのお茶、本当においしいものを食べたり飲んだりすると、人は自然に口角が上がって顔がほころびます。

この茶草場農法と技術に名前の付いているものは、1,000年先でも2,000年先でも受け継がれていくかもしれませんが、その一方で、農業は非常に従事者が目減りしている。今もなおどんどん目減りしている中で、名の付いていない技術はどんどん失われています。そういうものをどうやって保管し、次代までつないでいくかは本当に難しく、まだ解決できません。それをちゃんと子供たちにも共有していってもらいたいと思います。

自分の住んでいる地域で例えるならば、畜産業もそうです。私が就農したときには畜産農家は33軒いましたが、20年弱で3分の1以下になっていて、それは止めようがありません。

農業を更に近場で見れば、函南町の平井のスイカは、本当に有名なスイカの名産地なのです。そのスイカ農家もものすごく目減りしていて、本当に出荷するのも重たくて大変なのです。そういうことがだんだんできなくなっている年齢の人たちが今中心となってやっていて、そういう人たちに「もう跡継ぎもいないしやめる」と言われてしまいますと、私は酪農家ですけれども、今までずっとスイカ農家さんに堆肥を供給してきた、叱られて、泣かされて、いろいろな思い出があります。

そんな人たちが年を取ってやめるとなると、私たちも悲しいどころか自分の生活がかかってきまして、自分たちが牛乳などを生産する出口をちゃんとしていかないと、搾るに搾れないのです。ちゃんと堆肥を処理し、売ることができなければ、自分たちの活動も縮小していく。そういう中で、農業をしっかりと次代につなげる方策を子供たちと一緒にやって議論をしていける場が欲しいわけです。

もちろんそういうところで、私たちがそこに行って話をすることも可能ですし、また、子供たちが、どうしたらこういう社会の弱点を補うことができるのかを議論するだけでも、自分たちの生きる道、自分は社会にどうやって貢献できるのかという気持ちが芽生えることで、また徳を積むようなことになってくると思います。人助け、社会助けから、自らの生涯従事していく仕事の方向性を見出していけるならば、これは本当に素晴らしい教育になってくると思います。

ここで花の紹介をこのように書いていただきましたが、この花も1,000年単位で考えたら刹那に枯れるものですが、それこそこの花を育てる技術は、1,000年の間に枯れさせてはいけないもので、そういういろいろ

な技術が農業にはあって、少しでも途切れさせてしまうとまた一からやり直さなければいけない技術もあるわけです。

また、土地もどんどん使いづらい土地から放棄されていきます。そういう土地が、しょうがないと放棄されていけば、もちろん生産も減ります。しょうがない、しょうがないといくと、その放棄された土地を再生するのにまた時間がかかる。再生するに当たっても、その土地は余り好ましくないから放棄されているわけで、誰も再生しなくなる。そういう実情がありますので、今議論しなければ、だんだん土地は減っていき、生産量も落ちていき、本当に先細りになっていきます。

これを本当は大人たちだけで解決したいところですが、それはもう不可能だと思います。子供たちの力も借りて、社会総がかりで一次産業を盛り上げていく機運を高めていかなければ、本当に静岡の農業は衰退していきますので、是非ともこの教育会議の中で、農業を題材にして、社会の問題点は何かという時間を割いていただけたらと思います。

矢野委員長： 大変重い問題提起をいただきました。

今のお話もそうですが、そのほかに論点2として、障害者、マイノリティー、特別支援教育、あるいは道德教育、社会参加といったテーマがありますので、何か御意見があれば、出していただきたいと思います。

埴委員： マイノリティーにもいろいろありますが、それぞれのマイノリティーは意外とお互いに共鳴し合うということで、一つ経済的な問題についてお話ししたいと思います。

衣食足りて礼節を知る、足りなければどうなのだ。あるいは、成果目標を追い求めると個々の生徒はどうなるのか。学は以て已むべからず。青は之を藍より取りて、藍よりも青く、氷は水之を為して、水よりも寒し。これに目を向けなければいけないなど、いろいろありますが、教育現場から見ますと、幼稚園もよく顔を出して見ているのですが、入園時期はお母さんも子供も明るいです。それが、次第に親御さんたちが現実的になっていきます。子供たちもそれなりになっていきます。経済格差イコール学力格差という言葉がありますが、教育現場では、まさにその状態があります。

公教育はいろいろな要素が入りますが、私学の場合、各学校に幾つか聞いたり、資料を見せてもらったりしたのですが、やはり学力層の低い学校ほど明らかに世帯所得が小さいです。

高校無償化は年収590万未満ですが、私のところで該当する世帯がどのくらいあるのかと言いますと34%です。隣近所の数字を上げますと、お隣さんが54%、更にその隣に聞いてみましたら60%を優に超える状態です。

やはり、スポーツも芸術も教育も経済力が、大きく子供たちの成長に関わっている。そこを何とかしていかないとまずいです。地域の青少年

問題協議会の委員さんたちの話を聞いていると、やはり生活困窮世帯、母子家庭が増え続けている、これが最大の問題だとよく耳にします。やはり、世帯所得が低いところは、当然母子家庭の家族がかなり増えております。公平感が欠ける教育というのはまずいですね。

財界2世、3世とか、政界2世、3世とか、タレント何世とよく言いますが、こんな状況でいくとひょっとしたら別の意味でマイノリティーの支配する北朝鮮型とか、アパルトヘイトのような国になってしまう。将来、治安も相当悪くなる可能性があると思います。それを阻止して欲しいと思います。

それから、異文化理解とありますが、例えば、貧困というか極限状態で生活している人たちとコミュニケーションをとるときにどうしたらいいのでしょうか。郷に入っては郷に従えだから、同じ釜の飯を食えとよく言いますが、それができるかできないかです。できれば、彼らは非常に心優しく、心を開いてくれます。できなければ、人殺しにでも強盗にでもなる。こんな状況がありますので、貧しさというのは厳しいものがあります。極限まで行きますと、憎しみも悲しみも悔しさも全てその裏に消え去っていきます。そして自分自身が見えなくなってしまう。こういう状況だけは防いで欲しいと思います。

そうした状況の中で、社会はどのようなのだろうか。規則だから、決まりだからとか、前例がないからと言って、話すら聞こうとしない。これが現実ですので、このような中で子供たちの能力をどう育てていくのか。せめて話をしっかり聞くとか、あるいは活路を示してくれるとか、そういうことをしていただければいいのかなど。

学校教育の中だけでもいろいろなものが見えますが、日本人は本当に金に物を言わせてというところがあります。フランクフルトの空港で、ガルネリが差し押さえされましたよね。感情的にはよくわかります。一般的にヨーロッパでは、国の財産ですよ。楽器を課税するのはおかしいですが、どこかが少しおかしいと痛切に感じています。もっともっと世の中が寛容で、経済的に困窮している人たちに目を向けて欲しいと思います。

昭和50年代初めの新宿駅ですかね、ときどき見かける乞食がいました。当時の乞食ですからひどい格好をしていましたが、あるとき研究室にその状態で来ました。皆さん騒いでいましたが、名刺とこれを読んでくれと言って置いていったものがあります。それは論文で、東大の助教授でした。同時体験をしながら、心理学について学んだのでしょう。ただ、本当の意味の同時体験はできていないなと感じました。

貧困層が増える中で、こういう子供たちをどうしていくか。こども食堂などがありますが、社会全体でこういう子供たちにしっかり目を向けて、引っ張ってあげないといけません。

学校もそうですが、成果目標を追い求めると、大概生徒の問題行動も増えていきます。やはり教育現場としては、こういう面もしっかり手当

てをしてやるということです。多様化の中でいろいろな生徒さんがおりますが、一人一人を大切にすることが一番大事ではないかと思います。

子供たちには何の責任もありませんので、家庭によって左右されてしまうのが一番気の毒です。その辺のサポートをしっかりといただければありがたいと思います。

矢野委員長： ありがとうございます。
杉さん、どうぞ。

杉委員： 音読と道德教育に関連してですが、会津若松に什（じゅう）のおきてというのがあります。什というのは、人偏に十と書いて地域のことを意味します。世に知られた「ならぬことはならぬものです」という話ですが、その七カ条を使って会津若松で「あいづっこ宣言」というのができて、福島県では「NN運動」という運動が起きています。

例えば7つの項目の中の5番目が「弱い者をいじめてはなりません」というものですが、このように声に出して心にしみ込ませることを、静岡県でも幼少期や小学校の低学年ぐらいにできないでしょうか。

その言葉を押し付けるといろいろなことが起きてきますので、公募でこの5項目や7項目を入れましょうというのを県内から募集して、それをうちの幼稚園では取り入れましょうという形にできれば良いと思います。

矢野委員長： ありがとうございます。

限られた時間の中で、皆様に十分御意見を出していただけたかどうか、司会者としては心もとないですが、今回と前回の御意見のまとめにつきましては、池上副委員長と私にお任せいただきたいと思います。

それでは、終わりになりますが、知事から一言お願いします。

川勝知事： 熱心に時間ぎりぎりまで御議論いただき、本当にありがとうございました。

才徳兼備ということで、よろしいのではないのでしょうか。

報徳の思想というものがもともとございましたけれども、天地人、父母の恩、天の恩、人の恩に報いるというところから来たわけですね。有徳という言葉は昔からございます。

それから才徳ということで、池上先生から極めてわかりやすい形で御説明いただきましたけれども、こういう言葉を使っていくのは大事だと思います。

それから音読については、ここに俳句が幾つか載せられていますけれども、七五調、五七調というのは昔から日本にあるリズムですから、こうしたものを使うと覚えやすいということがあります。もちろん中身が問われますが。

本当に優れた才能を持っている人は、美しく輝くのです。本当に立派な才能を持っている方は、人の心がわかるから情けが出てくるのです。ですから、先ほど言われた面もありますが、才はとても大事なことだと思っております。

偶々今年明治150年です。大政奉還のときに、慶喜公が大政奉還の書状を出すのですが、そこには、鎌倉時代から含めてずっと武家が預かってきたけれども、薄徳のゆえに、この日本を取り巻く厳しい状況には応じられないので、天皇のもとに国を1つにしてやるのがいいと使われているわけです。最近是不徳の致すところという使い方をされますが、一貫して使われてきた言葉です。そこだけではなかなか見にくいところもありますから、才と。

それから、中高一貫と言いますが、先ほどのマリさんの御意見は高大一貫ということですね。

また、小学生でも才能のある子がいると。山本さんはサッカー選手、委員長は数学のことを言われましたけれども、中学3年生までに才能を見つけることがとても大切です。

そのためにはどうしたらいいか。一つは物につくとか、あるいは、立派な好きな尊敬する人がいれば、人につく。死んだ人であれば、その死んだ人の本を読めばいいわけです。人につく、物につくと。そして物事といいます、何か好きなことをする。事につくと。例えば、サッカーや算数などでいいと思います。それをするを通して一芸に秀でていて、そこで人間が磨かれていくと思います。

我々が今「ふじのくにづくり」というのは、富士の表意文字ですから、富と立派な人、これを両方とも追及すると。ですから、富は人をつくるために使わなくてはいけないということです。立派な人がいないと、富が変な形で使われるということで、富づくり、人づくりは一体です。

ですから、塙先生が言われましたように、清貧という言葉があるぐらいですから、貧困それ自体は悪ではありません。しかしながら、それが悪の温床になるということもはっきりしていますから、これは克服しなくてはなりません。特に、富について関係なく生まれてくる子供たちに対しては、しっかりと社会が支えなくてはいけない。そのために我々は税金をお預かりしていると思っております。

ですから、なるべく早い段階でその子一人一人の個性を見つけるためにやっていく。中学までは、25人以下の下限撤廃をやりました。ところが高校になったら突然、8学級以上でなければいけないとかあほなことを言います。義務教育ではありませんから、もっと自由をそこで保障していくと。

ですから、この人づくりが地域づくり、地域自立の基礎だと。1万円札ですよ。一番の基礎づくりは学問をすることだと。そしてそれは何のためだというと、これは国づくりのためだということです。

だから、自立のためには、まずは学問をして、一身が自立すると。一

国の独立は一身の独立にあり、一身の独立はこれまた学問にあり、この学問というのがここで言っているいろいろなことを学ぶということで、それは何も英数国理社だけではありません。その学びの姿勢だけは中学3年生までに教える。あとは自由にできると。

したがって、文科省から自立すると。ただし、武力のけんかはしない、言論で戦う。広く会議を興し万機公論に決すべしでやっていくと。国のために我々は静岡県民から税金を預かっているわけではありません。結果的に国のためになるだろうということで、まずは国の意向、文科省の意向などというものから自立するだけの精神を教育委員会にはしっかり持っていて、4クラスでも構わないようにしていきたいというぐらいに思っております。

音読はいいです。はっきり物を言うと、そこには言霊が宿りますから。

そういうことで、是非今日の御意見が県政に生かされるように、総合教育会議においても私と委員会のトップと御一緒に発言して、意見を交わしたいと思います。

今日はどうも御協力ありがとうございました。

矢野委員長： 静岡県の教育改革の仕組みは、日本のほかの県にはない特色を持っていて、本当の静岡モデルだと思います。皆様のような有識者から御意見を賜って、それをまとめて教育委員会の皆さんと一緒に総合教育会議の場で話をします。

この委員会の意見について、教育委員会に大変深い御理解をいただき、少しずつですが実行に移されております。これからも実のある改革をしていきたいと思っております。

次回の総合教育会議では、今日、あるいは前回の意見をまとめて、知事から御提案をいただきますが、実践委員会からも参加し、しっかり意見を述べたいと思っております。どうもありがとうございました。

事務局： 皆様、ありがとうございました。